

地震は起る

3・11の東日本大震災から4カ月が経とうとしています。

現地調査やテレビでの報道などから今回の惨状を見て、地形的に黒潮町と重なる部分もあり、現地に行った職員からは「将来の黒潮町を見たような気になった」という話もありました。現在、住民の皆さんの防災意識が高い中、そう遠くない時期に起こることが予想されている南海地震について、まずはその歴史に触れてみようと思います。

表にあるように南海地震は過去に何度も起きています。起こる頻度に多少の幅はありますが、100〜150年周期で起こるとされています。また、記述からわかる限りでは、津波が来襲し、被害も出ていることがわかります。政府の調査機関によれば、30年以内に南海地震が起こる確率は60%、50年以内になると90%の確率

で発生するという予測もあるようです。

過去に幾度と地震が起こっており、今後必ず起こることが予想される南海地震。残念ながらこの発生を防ぐことは不可能です。しかし過去の経験を生かすこと。同

じような被害を受けないように準備すること。これが非常に大事な

ことだと考えます。そして地震災害を防ぐことはできませんが減災は行うことができます。「日本人は熱しやすく冷めやすい」とはある専門家の言葉です。

現在の高い防災意識を一過性のもので終わらせるのではなく、必ず

来るものに対して継続的に防災意識を持つことが大事です。自分の、そして家族の、地域の人々の、生命の安全のために減災に取り組みませんか。

過去の南海地震と記述

684年11月29日(白鳳地震) 南海・東南海・東海3連動型とされる建物の破壊、人畜の死傷多く、土佐の田畑12平方キロメートルが海となる。津波あり。

887年8月26日(仁和地震)
 五畿七道大いに震う。近海津波来襲し、死傷者多し。

1099年2月16日(康和地震)
 記述等なし。痕跡あり。

1361年8月3日(正平地震)
 津波被害甚大。香美郡田村(南国市)の下庄正奥寺に高潮上がる。

1605年2月3日(慶長地震) 南海・東南海・東海3連動型
 地震い大津波あり。死者5000人に上り、崎の浜、甲浦、阿波宍喰で浸死者続出。

1707年10月28日(宝永地震) 南海・東南海・東海3連動型
 有史時代最大の地震の潰家29000、死4900。津波は土佐にて20m余り。海辺の在家一所として残る方なし。
 高知では潮江、下知、江ノ口より、一宮、布師田、大津、介良、下田衣笠まで海となる。

1854年12月24日(安政南海地震) 南海単独 前日に東南海東海地震有地震、大津波で被害甚し。土佐、紀伊、阿波などで死者3000。土佐湾沿いの赤岡以西はすべて災害被る。

1946年12月21日(昭和南海地震) 南海単独
 震害は四国、九州、近畿、中国、中部地方に及び、大津波来襲して全国で1330人の死者が出た。
 高知は震度5で午前4時19分に発震、地震後6波の津波あり。
 県下の死者670、不明9、傷者1836、家倒壊4834。

※黒潮町地域防災計画(平成19年5月)資料編を参照し作成。

減災にむけて

「揺れに備える」

●屋内の被害防止

家具転倒防止グッズや窓ガラスに飛散防止用シートを設置することとで、揺れによる被害や怪我のリスクを減少させます。

なお、黒潮町では家具転倒防止対策補助金(上限1万円)の申請を受け付けています。

非常持出品

災害に備えて、非常持出品を準備しましょう

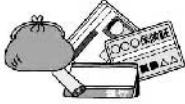
非常食品
3日分の水と食料が目安



ラジオ
正確な情報収集が大切



貴重品
小銭も意外と役に立つ



救急医療品
万一のけが等に備えましょう



懐中電灯 年に一度は、電池のチェックを忘れずに



●非常用持ち出し品

飲料水や食料、避難に必要なもの(懐中電灯、ラジオ、衣類など)、個人ごとの必需品(持病の薬、生理用品、眼鏡など)を準備し、中身を確認しておく。

また寝室に予備の履物を用意しておくことで、破損したものを踏むなどした場合に怪我を防ぐことができます。

【津波に備える】

揺れによる被害を免れた後は、津波から逃げなければなりません。この時は遠くに逃げるのではなく高い場所へ逃げることで、これが最も重要なことです。原則として、車は使用せずに避難します。地震による揺れで道路が使えない可能性、渋滞により動けなくなる可能性があるからです。

●避難経路・避難場所の確認

普段から避難経路や避難場所を確認しておくことが重要です。また地震はいつ起こるかわかりません。そのため、生活のさまざまな場面で地震が起こった場合に、ど

のように逃げるかおおよその予測をしておく必要があります。

●家族や地域で話し合っておく

今回の東日本大震災で注目をされた言葉があります。それが「津波でんでんこ」です。

これは東北地方で生まれた言葉で、その昔に津波被害を受けた教訓を生かした伝承です。津波が来るまで時間がないため、各自が自分の置かれた状況下で最善の方法をとって、「でんでんばらばらに逃げる」という意味だそうです。

実例としては、今回の東日本大震災でこの伝承を基に避難した岩手県釜石市立釜石東中学校の生徒たちが、校舎が津波にのみ込まれたにも関わらず、登校者は全員無事だったという話があります。

【津波が来たらずく逃げる】

このことを念頭に置き、普段から家族や地域で、避難経路や避難場所などについての話し合いを持つておけば、災害時の安否確認などがスムーズに行えます。

津波の特徴

- 引き潮から始まるとは限りません。
- すばやくおそってきます。
- 繰り返しておそってきます。
- すさまじい破壊力を持っています。

津波のスピード

沖では時速約700kmの速さで、岸に近づいても新幹線なみの時速約250km(1秒間に70m進む速さ)で押し寄せてきます。

入り組んだ海岸では波が集まり、波高が急激に高くなったりします。

○お問い合わせ

本庁総務課 消防防災係

☎43-2112(直通)

佐賀支所 地域住民課

総合窓口第1係

☎55-3113(直通)